

あんげろす

「愛の貧乏脱出大作戦」というTV番組は心を打つ。客足が遠のき、毎月つみ重なる赤字で倒れかかっている店の主がその道の「達人」に紹介され、三日間ほどの特訓で立ち直す道中を見せるドキュメンタリーである。斜陽店の大黒柱が包丁の使い方や接客のイロハから再教育される。その過程で、漠然と技術やメニューのまずさに問題があると感じていたのが、調理や来客をどんなものとして捉えるか、という心の態度を問い詰められていく。自分と仕事の関わりについて、文字通り汗と涙を流しつつ考え直さざるを得ない。この新たな展望のもとに自分を見つめ直すところから、人生出直しの旅が始まる。すいすいと旅に行くのもいい。しかしときにつまづくのも意味がある。それまで見えなかったものが見えてくる。「私はシオンにつまずきの石、妨げの岩を置く。これを信じるものは失望することがない。」多くの人生の同行者たちが避けて通ろうとするこのつまずきの石こそ、絶えず建て直しを必要とする私の人生には掛け替えのないしずえである。

成瀬 武史

第20号

1998.12

